

# 脊椎ケアセンターの将来構想について・・・

## 脊椎とは？

脊椎は躯幹の可動性と支持性に重要な臓器で、四肢の運動や感覚に関与する脊髄、馬尾、神経根の保護する役目も担っています。すなわち、日常生活、就労、スポーツを行う上で必要なことは脊椎の機能を健康に維持することです。

## 脊椎ケアセンターの使命は？

脊椎ケアセンターの使命は複雑な脊椎機能障害を持つ患者に安全で、経済的で、時宜を得た包括的な患者中心のケア（Patient-centered care, PCC）を提供することにあります。複雑な脊椎機能障害を引き起こす疾患としては腰痛、肩こり、頸部痛などの軸性疼痛性疾患、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、脊椎症などの脊椎変性疾患、後縦靭帯骨化などの脊柱靭帯骨化症、脊椎・脊髄腫瘍、脊椎・脊髄損傷、脊椎カリエスなどの脊椎炎、側弯症などの脊柱変形、骨粗鬆症など、多くの疾患があります。これらの疾患を持つ患者個人の痛み、しびれ、運動麻痺などに起因する機能障害や心理的社会的障害をケアすることが重要と考えています。

## 脊椎ケアセンターの特徴

- 1) 患者一人ひとりに Evidence Based Medicine (EBM) に沿った情報と治療を提供する。
- 2) 患者の包括的ケアを脊椎ケア・リサーチセンター施設内で行う。
- 3) 有効で、計画的な診断と手厚い治療計画を立案するためのチーム医療を実践する。
- 4) 患者の身体的、社会的、精神的機能を評価し、これらの機能をより改善させるための有効な患者ケアのプログラムを提供する。
- 5) 経済効果のある治療を提供する。

## 脊椎ケアセンターの研究

- 1) 新しい患者ケアのプログラム開発  
全ての患者の身体的、社会的ならびに精神的機能評価を治療前後で行い、経時的にその治療の有効性を評価する。この評価を行うことでより洗練した患者のケアやサービスのプログラムを開発可能です。
- 2) 基礎的研究  
脊椎疾患の主症状である疼痛メカニズム、変性脊椎の再生、神経根障害や下肢骨盤脊柱変形のメカニズム、骨粗鬆症性圧迫骨折後の骨再生などを行うことを目標とします。
- 3) 新しい治療法の開発（臨床治験を含む）
  - (1) 腰椎椎間板ヘルニアに対する経皮的ヘルニア摘出術  
新しく開発された機器を用いたヘルニア摘出術で、局所麻酔で施行可能です。顕微鏡手術や内視鏡手術よりも低侵襲で、米国での成績では従来の経皮的椎間板ヘルニア治療法よりも安全で、成績も良好です。
  - (2) 慢性腰痛に対する薬物療法  
従来の消炎鎮痛剤や神経系薬剤で効果のない慢性腰痛に対する、新しい手法による薬物療法

です。

(3) 変性椎間板性疼痛に対する人工椎間板 (未定)

(4) 変性椎間板性疼痛に対する成長因子注入療法 (米国で臨床治験中)

基礎的研究 (Kawakami M, et al. Spine 2005, 2007, Chubinskaya S, Kawakami M, et al. J Orthop Res 2007.) から得られた知見をもとに臨床的応用開始されています。